

[ホーム](#) > [ニュース](#) > [科学・IT](#)

[顔] 子供たち 将来の「ライバル」...「原子」で量子計算機開発に挑戦 大森賢治さん 60

2023/04/02 05:00 [読者会員限定] この記事をスクラップする

撮影・青木久雄

多数の鏡とレンズの間を、レーザー光が飛び回る。国際競争が激しい次世代計算機「量子コンピューター」の開発で近年、急速に期待が高まってきた「冷却原子」という方式の実験装置だ。その研究の傍ら、子どもたちに研究の魅力を伝える活動にも力を注ぐ。先月開催されたオンライン講座では、全国の中高生向けに「量子力学100年の謎」を熱く語った。

量子力学の大きな謎は、肉眼では見えないミクロの世界で「波」として振る舞う物質が、観測された途端に「粒子」となることだ。その境目で何が起きるのかわからない。「その不思議さから丁寧に話し始めると、小学生も膝を乗り出してくる」と語る。

20歳頃までロックミュージシャンを目指していた。中学時代からバンドを組み、東京大に入学後も学業そっちのけで活動。物にまみれ、大量消費される社会のひずみなどを自作の歌詞や曲にこめてライブで熱唱した。音楽業界ではかなり顔が売れたものの、大衆受けを狙って不本意な曲作りを求められ、苦悩した。親の仕送りで暮らす恵まれた状況との自己矛盾も感じ、2年生の半ばに活動を休止した。今度は学業に没頭して、研究の面白さに目覚めた。

学校などで講演するたび、自分の遍歴を紹介し「その時その時、自分が置かれた状況の中で、一番やりたいことに全力で取り組もう」と説いてきた。もちろん、量子研究をやりたい若者が増えてらうらしい。「量子コンピューターができるのは10年以上先。その頃、皆さんは私のライバル研究者です」。先月の講演では、中高生らに期待を込めて締めくくった。(編集委員 増満浩志)

おおもり・けんじ 熊本市出身。東大で工学博士を取得し、東北大助教授などを経て、2003年から自然科学研究機構分子科学研究所（愛知県岡崎市）教授。12年に独フンボルト賞。21年に紫綬褒章。